

日本安全教育学会第 16 回東京大会において発表を行いました(2015/10/24-2015/10/25)

テーマ：防災教育、安全教育
場所：東京女子体育大学

2015 年 10 月 24 日～25 日、東京女子体育大学で日本安全教育学会第 16 回東京大会が開催されました。本研究所からは、災害リスク研究部門の源栄正人教授、情報管理・社会連携部門の佐藤健教授、桜井愛子准教授が参加しました。源栄教授からは、特別講演「国際的な視野から防災教育を展望する～改めて考える防災教育の基本軸～」が行なわれ、桜井准教授からは 3 月の国連防災世界会議のパブリックフォーラム「防災教育交流国際フォーラム」（日本安全教育学会により後援）が報告されました。

源栄教授は、東日本大震災を「細分化社会を襲った巨大地震」ととらえ、学問の細分化、縦割り行政等、分化する社会における弱点が被害として現れ、ハード・ソフト・心のケアから見た弱点を解消するために、明暗を分けた「際」の科学的解明に基づく総合的な地震対策の必要性を示しました。また、科学技術・防災技術を活用した防災教育をすすめるための社会基盤づくりが求められていると説明しました。さらに、日本における巨大地震の教訓の国際的発信の重要性とともに、国際的な視野から防災教育を考える場合、地震リスクには地域性があり、国際格差がある点を指摘し、グローバルな手法に基づく地域性を考慮したローカルな視点の必要性、共通点と相違点に着目した防災教育の体系化が求められていることを強調しました。これらの指摘は、防災教育交流国際フォーラムで採択された防災教育に関する「仙台宣言」の中で盛り込まれている「国際的に展開可能な学校防災や地域防災に関する研究、実践、普及、高度化」に際して、ベースとなる考え方であり、これらを踏まえて、引き続き、防災教育の体系化に向けた実践研究に取り組むことの重要性が再確認されました。



特別講演を行う源栄教授



桜井准教授による報告

文責：桜井愛子、佐藤健（情報管理・社会連携部門）
源栄正人（災害リスク研究部門）